



TAKING OFF

大阪学院大学／大阪学院短期大学
国際センター ニュースレター

Vol. 16 Spring & Summer, 2012



1. 夏期海外研修の参加人数増加！

内 向きと言われる日本の大学生ですが、グローバル人材が求められるトレンドの影響か、円高の影響か、今年のOGU夏期海外研修は、75名という過去に例を見ない数の学生が参加します。今年は、カナダ・英語研修3週間(初級)、フィンランド・英語研修3週間(中級)、ドイツ語研修3週間、韓国語研修3週間、台湾・中国語研修3週間と5つのプログラムを用意しました。今回、フィンランドと台湾の提携大学で初めて短期の海外研修を実施します。参加学生たちが帰国したら、現地の様子

をレポートしてもらいたいと思います。

語学と成績の基準が厳しく設定されている交換留学とは違い、申し込めば基本的に誰でも参加できるという気軽さがあるにもかかわらず、例年学生を集めるのが大変だったのが実情です。今後も、今回のように多くの学生が海外研修に参加し、少しでも海外に触れる経験をしてもらるように、国際センターはPR活動を続けていきたいと思っています。学生の皆さん、百聞は一見にしかず。まずは思い立ったら行動に移す。そこから始めてみてください！

2. 派遣交換留学生レポート

昨年秋に日本を出発した派遣交換留学生たちがそろそろ全員帰国します。それぞれが派遣された国で、どんなことを学んで帰国するのでしょうか。先日、(株)エストレリータ 鈴木信之社長の講演会でもお話がありましたが、企業が求めている人材になる近道は「留学」。なぜならば、大変なことがたくさんある中で、それを自分で解決し、乗り越えていくことが必要になるからです。今回は、フランス・オルレアン大学に留学している外国語学部3年次生の田嶋紋奈さんと韓国・スンミョン女子大学に留学している国際学部3年次生の奥田詩織さんのレポートです。

田嶋 紋奈 “貴重な経験のつまった留学生活”

フ ランスでの生活も終わりに近づき、この10ヶ月間、本当にたくさんのことがありました。それをすべて皆さんにお伝えすることはできませんが、この留学生活を通して経験したことを少しお話ししたいと思います。

フランスにはたくさんの祝日、特にキリスト教に関連した祝日があります。私もフランスに留学したことによってフランスならではの祝日を経験し、それにとともにイベントに参加することができました。やはり同じイベントでも日本と過ごし方が違い、私にとっては興味深かったです。例えば、日本では年末年始はほとんどの家庭が、家族みんなで集まって過ごしますが、フランスでは家族ではなく友人たちとパーティーをして過ごします。年が変わる瞬間は「明けましておめでとう！」と一言言って、またパーティーが再開されます。年末年始は忙しく過ごすものと思っていた私にとっては、少し拍子抜けしてしまったところもありました。その代わり、フランスでの一大イベントはや



(上) フランス語クラスのクラスメートたちと(本人右)
(下) オルレアン街の街並み

目次:

3. 尹 多喜 “プレゼントのよう なインターンシップ”	2-3
4. 短期受入れプログラム: ランゲージパートナー	3-4
5. 国際センター講演会 “今海外に行くべき4つの理由”	4
6. 国際センターNews	4



はリクリスマスです。日本では、クリスマスはどちらかといえば恋人や友人と過ごすという印象がありますが、フランスのクリスマスは家族や親戚が集まり、大勢で過ごすのが慣わしのようです。そしてワインなどのお酒を飲みながら、すべて手作りされた料理をみんなで食べ、最後に用意していたプレゼントを交換します。

次に、私の留学生活の中で、おそらく二度と経験できないであろう大きなイベントがありました。それはフランス大統領選挙です。フラン

スの政治が変わる瞬間を現地でこの目で見ることができました。主に4月から選挙活動が開始され、それに合わせてテレビでも選挙関連のニュースをよく見るようになりました。フランスでの大統領選挙を経験して、まず思ったのが、若い人たちが政治への関心がとても高いことです。日本では、若者の政治への無関心が問題になっていて、実際に友達同士で政治について話し合うことなどはめったにないと思います。しかし、フランスでは若い人もインター

ネットなどで候補者についての情報を入手し、誰のどこが良いか、どこが悪いかなどを真剣に話し合っているのです。自分の政治への無関心さが少し恥ずかしくなりました。

このように、日本では経験できなかったことを、留学してたくさん経験することができました。しかし、その生活もうすぐ終わります。フランスで出来た友達やこの生活と離れるのは少し寂しいですが、最後まで目一杯残りの留学生活を楽しみたいと思います。

奥田 詩織 “今の韓国を体験”

気が付けば、こちらに来てすでに10ヶ月も経ちました。食堂やスーパーでの店員さんとのやり取りは、だいぶ不自由なく出来るようになりました。

今回は、私の留学生生活を様々な角度から紹介したいと思います。まず、韓国ではカフェが街中にあふれています。学校周辺だけでも70軒以上のカフェがあると聞きました。夜遅くまで開いているカフェもあれば、テイクアウト専用のカフェ、ブックカフェなど、お店によって特徴は様々です。最近ではタピオカが流行っているようで、新しく2軒のタピオカカフェが出来ました。70軒ものカフェが集まっていて、売り上げはどうか。これは留学生だけでなく韓国人も気にしているようなのですが、値段も味も豊富なので、お客さんも常連というよりは、今日はこの店、明日はこの店という感じで流動しているようです。

次に、日本では今も韓流ブームが続いているようですが、こっちにきて他の国からの留学生と話していると、日本だけでなく、アメリカやヨーロッパでも同じようなブームが巻き起こっているようです。恥ずかしながら、私もしばらく

アイドルの‘おっかけ’というものをしてみました。空港に行ったり、音楽番組に通ったりしましたが、日本人はもちろん、様々な国の人がたくさんいました。おっかけをしなくても、ソウルはそれほど大きな都市ではないので、芸能人に遭遇することも多々あります。また、韓国では、日本よりも芸能人を広告として利用する企業が多いので、看板や駅のポスターだけでなく、バスの側面にまで人気芸能人の写真がフル活用されています。世界各国の韓流ファンからすると、街を歩くだけでもとても楽しいと思います。

もちろん、遊んでばかりいるわけではありません。大学の授業の他に、集中的に韓国語を勉強する語学堂にも通っています。ここでは学生だけではなく、韓国人と結婚した主婦の方や、韓国での大学入学を目指している外国人が勉強しています。みんなとにかく韓国語力を伸ばしたいという同じ目標があるので、日々切磋琢磨して授業を受けていますし、意識して韓国語で会話をするようにしています。おしゃべりが大好きな私にとって、伝えたいことを伝えられないのが一番辛い



(上) 語学堂の先生とクラスメートたちと (本人左から三人目)
(下) 大学の友達とカフェの前で (本人後列左)



ので、早く思ったことが話せるようになりたいという一心で、勉強に励んでいます。

10ヶ月の留学を通して、韓国のみならず、日本の良いところ、良くないところにも気づくことが出来ました。残りの2ヶ月、短い期間ではありますが日韓の新しい部分をたくさん見つけられればいいと思います。

ユン ダ ヒ

3. 尹 多喜 (韓国・スンミョン女子大学) “プレゼントのようなインターンシップ”

尹 多喜さんは、昨年からスタートした富士ゼロックス大阪での留学生向けインターンシッププログラムに、他の2名の韓国人留学生と一緒に参加しました。最初は不安の中からスタートしたインターンシップでしたが、この経験を通して本当にたくさんのことを学び、また自分を見つめなおすことで将来の目標も定まったようです。彼女にとってこのインターンシップは素敵なプレゼントになりましたが、私たちも彼女の貴重な体験を通して学ぶことが多いように思います。

日本に来てから、日本語で自分の言いたいことがきちんと伝えられているのか、日本社会を浅いレベルでしか理解していないのではないかと、いつも自分がどこか足りないと感じていました。そんな気持ちを持ったまま、富士ゼロックス大阪のインターンシップに参加することになりましたが、こ

の貴重な機会を通じて、日本のビジネス環境を実体験し、実務的な知識を修得し、日本の文化と社会を理解し、さらには日本語のコミュニケーション能力を高めたと思いました。

インターンシップを通して、「自分だけの強みを持つことの大切さ」、「自分を大切にすることの大切さ」、「目標を持つことの大切さ」という3

つのプレゼントをいただきました。今日はそのお話をします。

1. できる、私

どんな状況でも、自分だけの強みを持つことが大切だということを学びました。他人と比べて自分だけが出来ることを持つことは、競争社会ではなくてはならないものだと思います。そ





私はインターンシップを志望する時から感じていたのですが、内定者たちと会って話をしたとき、マインドマップを書いたとき、モバイル・クラウド研究プログラムに参加したときに、自分だけの何かを持つことの大切さを強く感じました。もちろん何でも完璧にできるようになるのは大変ですが、置かれた状況の中で自分の強みを活かして、上手くやっていくためには、自分のことをきちんと知る必要があると思います。私は、誠実さと良い人間関係を維持する能力が強みだと思っています。それを活かして、自分が目指す目標に向かってがんばりたいです。

2. 楽しむ、私

「知之者不如好之者、好之者不如樂之者」という孔子の言葉があります。「知っているだけの人より、好きになった人のほうが優れている。好きになった人より、それを楽しんでいる人の方がもっと優れている」という意味です。今まで私は、スタートラインを出発したら絶対に転んだり、よそ見をしてはいけないと思ってきました。しかし、マインドマップを作ったり、富士ゼロックスの方々から助言をいただいたり、周りの人たちと話をすることで、真っ直ぐに行くのも大事だけれど、楽し

みながら泥道を歩いて行っても良いのだと思えるようになりました。それから、プレッシャー以外の何ものでもなかったインターンシップがだんだんと楽しめるようになり、以前より自由に発言したり、様々な角度から物事をとらえられるようになりました。

3. 頑張れ、私

インターンシップに参加するまで、私の目標は雲をつかむようなものでした。でも、マインドマップを作ってから、このままインターンシップを終えてはダメだと思い、自分のこれからについて真剣に考えてみました。最終的に、大学2年生の時から興味を持っていた「韓国観光公社」に就職したいという気持ちになりました。魅力ある観光国・韓国を作ろうというビジョンを持っている韓国観光公社の海外マーケティング室の日本チームや、日本にある4つの支社の社員になりたいです。私が今まで、そしてこれからも勉強し続ける日本文化コンテンツを活かして、その目標に到達するまでがんばります。

このインターンシップの経験は、とても心配性だった私を、自分のことを大切に、もっとポジティブに考えられる人に変えてくれました。富士ゼロックス大阪から頂いた3つ



(上) 富士ゼロックス大阪関係者、インターンシップ参加学生、担当教員と(本人前列中央)

(下) 富士ゼロックス大阪でのプレゼンテーションの様子



のプレゼントを胸に刻んで、これからは自分の強みを前面に出し、日本と韓国の架け橋になれるように、楽しみながらがんばりたいと思います。今回の経験が、私の目標に至るまでの意味深い一歩になることを心から願っています。

4. 短期受入れプログラム：ランゲージパートナー



5月14日から2週間、タイ・コンケン大学とカナダ・メディシンハット大学からの学生たち16名がOGUでの日本語研修に参加しました。この研修のイベントや学外研修のサポートに入ってくれたのが、ランゲージパートナーです。彼らの異文化体験を紹介します。

中村 悠作 (外国語学部3年次生)

今 回、私は初めてランゲージパートナーをしました。参加のきっかけは、9月から来年の1月までの半年間、台湾に交換留学に行くので、その準備も兼ねてやってみようと思ったからです。

まず、今回の経験を通して感じたことをお伝えします。ランゲージパートナーとして最初に参加したのは、Welcome Lunchでした。タイとカナダの学生はほとんど日本語が話せないの、コミュニケーションは英語が中心になるということは、あらかじめ事前ミーティングで聞かされていました。ですから、Welcome Lunchでこれまで学んだ英語を口に出して使ってみたのですが、あまり相手に伝わらず、とてもショックを受けました。そして、相手が話す英語を必死で理解しようとしたのですが、あまり聞き取れず、さらなるショックを受けました。また別の機会では、一緒に梅田周辺に観光に行ったのですが、そこでも道や切符の買い方を教えるのに、どうしても英語で説明する必要がある、思ったように伝えることができませんでした。色々なことを通して、私の英語力のなさを身にしみて感じるようになりました。

次に、良い意味でカルチャーショックとも言えるエピソードを紹介します。タイの学生たちと梅田で一緒に食事をした後、「ここは、全額私たちが払います」と言ってくれたので、「出さなくていいよ」と何度も言ったので



タイの学生たちと道頓堀の戎橋で(本人右から二人目)

ですが、結局、みんながお金を出し合って、全額払ってくれました。なぜ、そんなことをしてくれたのか尋ねると、「あなたたちが色々な場所を案内してくれたので、そのお礼です」とのことでした。その時、私は、申し訳なさ、感謝の気持ちで一杯になりました。英語が不自由であまりサポートもできなかった私たちにこんな気持ちを向けてくれたタイの学生たちの優しさに感動し、自分も同じことができるようになりたいと思いました。

ランゲージパートナーをしたことで、英語は世界の共通言語だということ、そして、英語が流暢にしゃべれないからと言って消極的にならず、勇気をだして言いたいことを相手に伝えようとするのが大切だということを知りました。このアクティビティは、私にとって異文化を学ぶとても良い機会になりました。次もまた参加したいと思います。



水川 絵美 (外国語学部3年次生)

私 は今まで3回ランゲージパートナーをしました。毎回感じるものが新しく、新鮮な気持ちで参加しています。これまでのアメリカ、韓国、中国からの研修生に引き続き、今回はタイの学生たちとの初めての交流でした。私は英語が上手に話せるわけではなく、ましてやタイ語なんて全くと言っていいほど分かりません。それでも、彼らは私たちを素晴らしい笑顔で迎え入れてくれました。私はとても嬉しくて、その時のことは今でも強く印象に残っています。みんな会って数分経つと、言葉の壁を越えて、お互いが相手のことを知ろうと本当に一生懸命でした。

今回参加して一番に感じたことは、たと

え言葉で意思疎通が上手くいかなくても、お互い相手を必要とする気持ち、理解しようとする気持ちがあれば、そこに親しい関係が生まれるということです。タイ人学生は日本人と交流し、日本の文化に触れたくて日本に来ていました。そんな彼らをサポートする機会に恵まれた私たちは、外国人と交流することで、そこから異文化を学びたいという気持ちがありました。だからこそみんな積極的に交流し、話を聞こうという姿勢になれたのだと思います。

このような気持ちを持っている人であれば、このランゲージパートナーのボランティアはとてもよいと思います。是非積極的に参加してみてください！



タイの学生たちとJR大阪駅で(本人後列右から三人目)



ランゲージパートナーの学生たちが作成した冊子

5. 国際センター講演会

(株)エストレリータ 鈴木 信之社長

“今 海外に行くべき4つの理由～就職活動が始まってから慌てないために 今出来ること～”

人 事コンサルティング企業である株式会社エストレリータ取締役社長・鈴木 信之氏をお招きし、2012年6月1日に講演会を実施しました。昨年、一昨年に引き続き、今回が3回目になります。鈴木氏から、海外に行くことと昨今日本企業が求めるグローバル人材との相関性、今海外に行くべき4つの理由をお話いただきました。

＜理由1＞2017年には日本の労働力人口が440万人も足りなくなると予測されており、外国人労働者が増えることになる。そこで海外生活経験者が日本人と外国人をつなぐ接着人材になる。

＜理由2＞積極性、忍耐力、判断力、コミュニケーション能力、異文化適応能力などを習得することができる。

＜理由3＞企業が若者に期待する社会人基礎力を身につけることができる。

＜理由4＞企業が採用面接をするときに一番注目している、学生時代に「独自の工夫で、現状を変える取り組みをした」というエピソードをたくさん作ることができる。なぜなら海外生活はトラブルの連続だから。

便利な日本を離れて海外に行くことは、お金を払って自らトラブルを経験しに行くようなものだと思うかもしれませんが、しかし、「トラブルはウェルカム！

自らの工夫でトラブルを解決する力を養うことができるまたないチャンス！」とポジティブに考え、高い意識を持って留学や研修に参加することで、【グローバル人材】に一步近づくことができます。

鈴木氏のエネルギーなお話により、多くの参加学生が目を輝かせて聞き入り、熱心にメモをとっていました。また、講演終了後は学生からの質問が飛び交い、留学を予定している学生はもちろんのこと、まだ迷っている学生にとっても、海外に行く意義を再確認できる大変貴重な機会となりました。



(上) 講演中の鈴木信之社長
(下) 参加した学生たち

6. 国際センター News

1) 交換留学春出発募集

2013年2月に出発する交換留学生を募集します。大学の学年暦が合わないため、春出発はアジアの提携大学が中心になります。1年次生でも申請可能ですので、ぜひ前向きに検討してみてください。

申請期間：2012年7月17日(火)～27日(金)

2) 2012-2013 国際交流プログラム

今年も8月末に海外の提携大学から62名の留学生が来日します。9月3日から6日にオリエンテーション、9月8日にはWelcome Partyが開催され、その翌週10日から授業が始まります。キャンパス内でたくさんの留学生を見かけることになると思います。留学生たちは日本語を学びにOGUに来ていますので、気軽に声をかけて友達になりましょう。



大阪学院大学／大阪学院短期大学
国際センター

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号

TEL: 06-6381-8434 (代表)

FAX: 06-6381-8499

Email: inoffice@ogu.ac.jp

国際センターBLOG“Taking Off”もご覧ください。
<http://inoffice.blog102.fc2.com/>